

(仮称)盆栽アカデミーについて

1. (仮称) 盆栽アカデミー設立の目的

(1) 大宮盆栽をめぐる現状と課題

盆栽への注目が高まりつつあり、初心者から上級者まで各レベルに応じて盆栽を学ぶことのできる場が求められているものの、そのニーズには対応できていない。

盆栽に興味関心を持ちはじめた初心者、あるいは盆栽をもっと学びたいという愛好家、これら国内外の様々な人々の要望に応えるための受け皿の整備が課題

(2) (仮称) 盆栽アカデミーのミッション

日本初の盆栽専門の公的な学習・研究機関として、世界中の盆栽愛好家の学びのニーズに応えるとともに、盆栽文化・技術の中心である大宮盆栽を発信源として、盆栽文化の洗練と普及に貢献する。

盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ「盆栽専門の学習機関」

(3) (仮称) 盆栽アカデミーの3つのビジョン

ビジョン1: 盆栽の技術から作法・文化・歴史までを体系的に学べる日本初盆栽専門の公的学習機関として、世界一（世界最高峰）の水準を目指す。

ビジョン2: 各盆栽園の持つ技術・ノウハウ・知識を後世に残すための教本づくりに取り組み、盆栽専門家の育成や愛好家の技術向上といった人材育成活動を通して、盆栽人口の裾野拡大を目指す。

ビジョン3: 盆栽に関する学術的な研究に取り組むとともに、若手研究者の盆栽研究を振興し、その成果を発表できる環境を整備することで、盆栽の学術的な地位の向上を目指す。

2. (仮称) 盆栽アカデミーの概要

(1) 開設時期: 平成29年2月 日本盆栽協会主催の「国風展」に合わせて開催する特別講義をもって開設。同年4月の世界盆栽大会とあわせて初級・中級コースを開講。

(2) 会場: 大宮盆栽美術館他近隣施設

(3) 運営主体: さいたま市

(4) 対象: 盆栽に関心を寄せる国内外の人

(5) カリキュラムの方向性: ①大宮盆栽の伝統・文化を国内外に伝える。

②国内外の盆栽愛好家のニーズに応える。

③盆栽に関する技術面・文化面を体系的に教える。

(6) コース: 日本人・在日外国人・外国人を対象とした、初級・中級・上級の3コース

3. (仮称) 盆栽アカデミーの今後の進め方

(1) カリキュラムについて

日本人や在日外国人を初期の受講対象として、アカデミーの基礎を固める。実践レベルでの試行を十分に重ね、カリキュラムを上級レベルに発展させ、完成度を高めて、海外からの上・中級者の恒常的な受け入れを図る。

平成29年4月の開設までに、まずは基礎的な実技・講義を中心とした、日本人向け初級・中級コースのカリキュラムを作成する予定。

- 平成29年4月・・・日本人向け初級・中級コースの開講
- 平成30年4月・・・在日外国人向け初級・中級コースの開講
- 平成31年4月・・・日本人・在日外国人向け上級コース、外国人向け初級・中級コースの開講
- 平成32年4月・・・外国人向け上級コースの開講

(2) 施設について

①実習室・講義室について

実習室・講義室については、現段階では美術館の講座室と既存周辺施設（埼玉県自治人材開発センター・盆栽四季の家）の併用を想定する。ただし、いずれも利用率が高いため、需要が増加した際には別途施設の確保が必要になる

②培養場・実習場について

(仮称) 盆栽アカデミーに係る施設としては、実習室・講義室とは別に教材としての盆栽を保管・培養する「培養場」が不可欠である。また、実習については、屋内の実習室とは別に、屋外で盆栽の管理・育成方法を指導する場所（実習場）が不可欠である。

環境・立地ともに、盆栽の培養に最適な「(仮称) 文学館用地」を(仮称) 盆栽アカデミーの実習室・講義室及び培養場・実習場として整備していく。整備にあたっては、発展段階的な整備とし、まずは開設当初段階から必要となる培養場・実習場を整備する。その後、(仮称) 盆栽アカデミーの需要動向を勘案しながら、実習室・講義室の整備を検討していく予定。

(3) (仮称) 盆栽アカデミー開設・開講までの課題

①運営方法の検討

受講システムや受講料等のあり方について、平成27度の事業化計画の策定の中で検討。あわせて「アカデミー担当」の設置等を視野に人員配置の検討も進めていく予定。

②カリキュラムの作成及び講師の選定

東京農業大学との勉強会や日本盆栽協会・大宮盆栽協同組合等との連携・協力をはかりながら検討を進める。初級・中級コースのカリキュラム及び講師については、今年度中に確定する予定。

③実習室・講義室及び培養場・実習場の確保

実習室・講義室については、今年度中に、関係各所と協議を進める予定。培養場・実習場については、今年度中に、(仮称) 文学館用地を管轄する所管と協議の上、移管に向けた手続きを進める予定。